

追悼

第4代理事長の前田耕作先生が逝去されました。初代理事長 平田登志郎氏と現理事長 高橋英夫氏の追悼文を掲載します。

前田耕作氏へ惜別の辞

日本教職員バドミントン連盟
顧問 平田 登志郎

五月も終わりの三十一日、江古田斎場に会長の関場氏、顧問の里見・龍井氏と共に告別式に参列してまいりました。ご霊前の笑顔の写真の前で半世紀を過ぎる彼との数々の思い出が走馬灯のように頭の中を巡り、読経の中に時の過ぎるのを忘れるひと時でした。

昭和36年の教職員連盟創立の頃から組織の中堅として、卓越した見識と旺盛な気力・体力を絡しめなく発揮され、また生徒へのバドミントン指導にも絡しめなくその力を注がれました。

前田さんとの最初の出会いは、昭和33年、当時の私の勤務校の台東区立竜泉中学校に社会科の講師として、中央大学卒業直後に赴任された時でした。校庭で生徒たちと元気に相撲や野球、そのうちに勢いあまって校長室の窓ガラスを割り、私も一緒に謝りに行ったのが縁で、ラケットを進呈しバドミンントンの指導に誘ったのが始まりでした。

その後、区内の下谷中学校の講師など数校の講師をしながらバドミントンに打ち込んで、都大会で優勝させる程の進境を遂げられました。昭和30年代も終わるころ、日大鶴ヶ丘高校に安定した職場を得られ、連盟の理事長を引き受けられ、幾多の優れたプレーヤーを育てると共に当時の日本大学の柴田総長をJEF二代目会長に引っ張り出し、100万円の基金を出して頂いたりなどの破竹の活躍をされました。当時よく、バドミントンは「格闘技」と喝破した前田さんの面目躍如たるものでした。

定年も近い60台に入った頃から気力・体力の旺盛さが患いして初期の腎臓病を軽視していたため、30年間にわたる週3回の腎臓透析との戦いでした。しかしその中でも千葉に築いた別荘農園に通い丹精した野菜を頂いたり、別荘に役員を集め連盟周年誌の編集業務に尽力されたり、組織の運営にその力を惜しまぬ姿は変わりませんでした。亡くなる一年前まで透析をしながら連盟の会合や、顧問同志の会合には不自由な歩行にもかかわらず必ず参加された姿には敬服させられました。今ここに惜別の言葉は無力で、過ぎ去って行く轍を止めることができないのが残念です。

合掌



第44回栃木大会レセプションより

後列：関根元専務理事・村山元専務理事・遠井元専務理事各氏

前列：里見2代理事長・前田・平田初代理事長各氏